

第1WG 評価コメント

評価者のコメント(評価シートに記載されたコメント)

事業番号1-73 訪日外国人3000万人プログラム第1期事業

まずはマーケット・リサーチを十分に行った上で再検討すべき。

事業計画としてもっと精緻にすべき。来年度前半にもっとよく計画を練って支出を考えるべき。

効果のある対象を選定すべき。マーケティングが全く出来ていない。まずはプロモーションにとにかく時間とお金をつぎ込むべき。

テレビCM 当に巨額な予算を投入する必要はない。マーケットを絞って欲しい。

事業の必要性は強く認識するが、マーケティング不足は否めない。中国がターゲットであるならば、重点化をして、計画を組み直すべき。

何が観光客増につながるか、改めて戦略的に考えて予算を再検討する必要がある。

既存予算の枠内でより効果的な事業に重点投資すべきである。これまでの施策に係る効果が不明。

広告という方法については本当にもう一度考えるべき。

効果が不確定な広告費をもっと絞り込んで要求すべきである。

あまりにも効果が読めない(説得力ある説明がない)ので縮減は止むを得ない。

リサーチをやり直すのであれば、1~2%の予算は付けられるのではないか。

経済状況や為替が悪い状況ではそもそも効かない。

今世紀に入ってから海外旅行者の増加は、為替レートによって説明できると思われる。急激な円高が進む中で、広告・宣伝によって誘客することは残念ながら期待薄であろう。来年度当初予算への計上は見送り、一度立ち止まって考え直すべきであろう。

観光圏に絞って魅力的な素材を育て、効果が出たらその結果を見てから、1国に対し、円安の時に、効果的なメディアを見極めてから広告を打つべき。ノウハウを蓄積すべき。

(次頁へ続く)

WGの評価結果

予算要求の縮減(半額を縮減)

(廃止 0名 自治体/民間 0名 予算計上見送り 4名
予算要求縮減: a半額 5名 b1/3程度を縮減 1名 cその他 3名、
予算要求通り 0名)

とりまとめコメント

観光が非常に重要であることは繰り返し確認し、評価者にもその点にまったく異論はなかった。

マーケティング不足、リサーチ不足は否めないのではないか、それをしっかり行った上で施策を打たないといけないのではないか、税金の使い方としていかなものだろうかとの意見があり、また、建設的意見として、中身を組み替えてリサーチに特化したらどうかとの意見もあった。しっかりとマーケティング・リサーチを行うのは当然。

WGの結論としては、中身についてしっかりと見直しを行った形で、積極的観光政策をとっていただきたい。予算要求の半額の縮減を結論としたい。

なお、大幅な増要求が行われた中で半額程度という評決結果となったことは、観光庁に対する強い期待の現れであることを付言する。